

Part 3, Vols 9–12 : Social Life and Manners, Third Series

ISBN 4-902708-13-2 C3322 · 全4巻セット定価64,000円(税込67,200円)

旅行文学、アメリカ環境史、フロンティア研究にとって貴重な資料

Volumes 9–12 : Seymour Dunbar *A History of Travel in America* (1915)ISBN 4-902708-13-2 C3322 · 1602 pp., 12 col. pl., ill., maps
全4巻セット定価64,000円(税込67,200円)

アメリカ研究の中での移動(旅・交通手段)は重要なテーマ。本書は旅行史の視点から、あるいは移動手段発達史の視点から、先住民のトレールやカヌーの説明から大陸横断鉄道に至るまでを、約400点のイラスト、12のカラー図版、2枚の地図をもって、懇切丁寧に解説。Topics discussed include: west- and southward exploration and migration; life on the frontier; relations with the indigenous population; geography and condition of the country and the difficulty of travel; Indian trails and guides; early travel by water: canoes, pole-boats and ferries, primitive bridges; sedan chairs; horseback journeys and the first horse vehicles; travel in winter; forests and wilderness; the hill people; log cabins and cabin dwellers; Daniel Boone's wilderness road; caravans; the Transylvania Company; relationship between forest trails and rivers; women in pioneer life and work; establishment of a regular national

transportation system; appearance of the stage-coach; the era of the pack-train; early taverns and travel conditions: laws and regulations; John Fitch and the application of steam in transportation; steam boats; the age of the flatboat, ark and keel-boat; early companies, legislature, and monopoly; travel through Indian territory; final wars and treaties concerning control of territories; the Santa Fe Trail; the Mississippi Valley; the last pioneer generation; regulation of taverns, roads, ferries and navigation; end of the river pirates; economic importance of the horse; horse thieves; Davy Crockett and flatboat life; origin and development of the national roads; evolution of the stage-coach; building and exploitation of a canal network; line- and packet-boats; development of railroads and locomotives; migration to the West; the Mormon overland pilgrimage; the transcontinental railway, etc.

The work is based on numerous travel accounts, diaries, and other primary sources, listed in the extensive "Contribution to a Bibliography of the History of Travel in America," and contains many documents and illustrations from such sources, and concludes with an Index.



A History of Travel in America の復刻に寄せて

山里 勝己 (琉球大学教授)

1620年、プリマスに上陸したウィリアム・ブラッドフォードは、「後ろをふり返ると自分たちが渡ってきた巨大な大洋があり」、眼前には「野獣と野蛮人がいる恐ろしい荒蕪たる荒野」以外にはなにもない、と感じた。それから150年ほどにわたって、ユーロ・アメリカンの移住者たちは、東海岸の狭い地域に閉じこめられることになった。

ブラッドフォードが見た「荒蕪たる荒野」は、人を寄せつけぬ「広蕪たるウィルダネス」であり、どこまでも果てしなく広がる深い森林であった。そのような森は、胴回り5メートル、高さは40～50メートルにも及ぶような巨木に満ちた森であり、このような巨大な樹木の倒木が林床を覆っていた。また、そこにはさまざまな植物が生い茂り、行く手を阻んでいた。

これが、初期のユーロ・アメリカンたちが直面した、北アメリカの自然の一面である。これにいくつもの大河や巨大な山脈、広大な湖、延々と続く砂漠を加えると、大陸を横断する困難さが想像できるだろう。

このような自然環境に直面しながら、人間はどのように移動したのであろうか？ われわれが普通に眼にする北アメリカの旅行は、カウボーイたちの馬や、パイオニアたちの幌馬車といったステレオタイプに限定されがちであるが、じつはネイティブ・アメリカンやユーロ・アメリカンたちはさまざまな手段を用いて移動した。それは、現代のわれわれの想像を越える知恵と想像力をもたらしたものであり、先住民のトレールやカヌーの説明から大陸横断鉄道に

至るまで、本書は豊富な図版と資料で大陸を移動するための手段を見せてくれる。

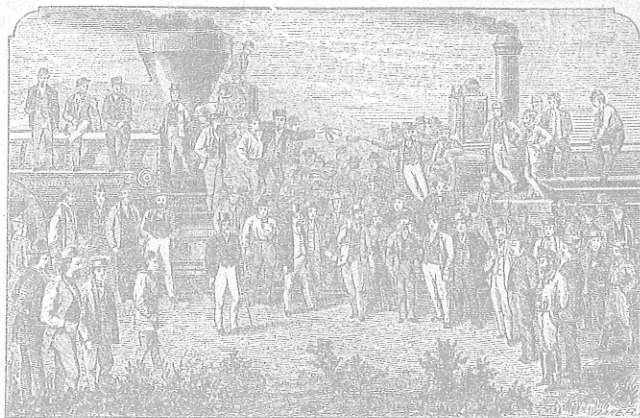
大陸に到達したユーロ・アメリカンたちは食料だけでなく、交通手段もはじめは先住民から教わった。例えば、森の中を抜けていく先住民のトレールは、大陸を体験し始めた白人たちには重要な移動の手段であった。あるいは、森林が行く手を阻んでいるとすれば、白人たちはカヌーで川を行く方法を先住民から学んだ。そのようなカヌーはどのような材料を用いて、どのような方法で、どのような大きさで、どのような形を有する移動手段として製作されたか？ 本書は、このような疑問に興味深い図版を用いて明快に答えてくれる。

アメリカ史の中には、大規模な移動、または旅行の契機となったいくつかの出来事がある。例えば、(1)1787年～1789年あたりに始まったオハイオを中心とする「北西部」への移住、(2)1807年～1809年あたりの輸送手段としての蒸気機関の発達、(3)1828年～1829年頃に始まる鉄道建設、(4)1848年から1849年にか

けて始まったカリフォルニアのゴールド・ラッシュ、(5)そして1869年の大陸横断鉄道の完成などは、それに伴って北米大陸を移動する手段の大規模で急速な発達をもたらした。本書は、このような歴史の展開を、旅行史の視点から、あるいは移動手段発達史の視点から、約400点のイラスト、12のカラー図版、2枚の地図でもって、懇切丁寧に説明する。

しかし、このような「建国」の歴史を、移動手段の発達という物語だけで語ろうとするならば、それは最後には退屈なものになりかねない。本書を貴重な資料にしているものは、「旅行史」という枠組みに閉じこめられることなく、そのような旅行(=移動)の手段を創造した人物たちをも生き生きと描き出しながら、ユーロ・アメリカンの文化、理念、その移動する動機を語ろうとしていることであろう。

本書は、旅行文学、アメリカ環境史、フロンティア研究だけでなく、アメリカ文学・文化全般を深く理解するためのきわめて貴重な資料になっていると言えよう。



THE EAST AND THE WEST.

THE ORIENT AND THE OCCIDENT SHARING HARDS AFTER DRIVING THE LAST SPIKE.